

【研究ノート】「引揚者マーケット」別府中央市場の歩み

白土康代

戦後、非戦災都市であった別府には大勢の引揚者が押しかけ、「職と住」を同時に解決できる「市場」がいくつも開かれた。

そのひとつ別府中央市場は、現在もかろうじてその姿を残している。

この研究ノートは、別府中央市場の歩みをたどったものである。

別府中央市場協同組合の議事録（昭和 26 年～昭和 44 年）などを主な資料としている。外からではなく時代の変容とともに変化していく引揚者自身の姿を彼ら自身の声によってとらえることを試みた。

他の町における引揚者マーケットとの比較検証が必要ではあるが、温泉都市である別府は、もともとさまざまな事情を抱えた人々を受け入れて来た町である。中央市場が町に溶け込み、引揚者であることをそのまま引き受け、共属感を強めながら自信を深めていった歩みは別府という町の特徴と結びついていると考える。